

ペットボトルから世界へ

身近なことから取り組む大切さ



↑ペットボトルキャップのリサイクル工場

現在、桜丘では校内全体・寮全体でペットボトル回収運動を行っている。

自動販売機が校内や寮内に設置されていることから、ペットボトルのごみは絶えない。そこで、ペットボトルキャップを

通じて、世界の子どものプラスチック製品の製造を主にしている。その一貫で、各地から集められたキャップを粉砕し、その売却益をワクチンへの寄付に充てているのだ。粉碎の前に行う工場ではハンガーな



→粉砕機でキャップを入れる様子



→ワクチンに関するポスター

ワクチンで助かるちいさな命。1日4000人。

は障がい者施設に委託して行っている。1kg(約430個)につき10円のワクチン代がで、ポリオワクチン1人分は20



←集められたペットボトルキャップ



→キャップを粉砕している様子



→作られたハンガー

円であるため、2kg(約800個)のキャップで1人分のワクチンが提供されるのだ。今回訪れた際には、校内で集められた計



←選別されたキャップ

14kgのキャップを提供した。これが7人分のワクチンに繋がっていくということだろう。



←ハンガーを作る機械

校内でのペットボトルキャップの回収運動を主導しているボランティア委員会の委員長は6B徳田

加を呼びかけた。ボランティア委員会はポスターの掲示もを行い、この活動を盛り上げている。

琉乃介君は「キャップ回収は一人ひとりの小さな行動の積み重ねで、大きな社会貢献につながります。この活動で、環境への意識が高まっていくことを願っています。これからも皆さんのご協力をよろしくお願いします」と引き続き運動への参

加を呼びかけた。ボランティア委員会はポスターの掲示もを行い、この活動を盛り上げている。たかがキャップ、されどキャップ。本来捨てられるはずのキャップが誰かの役に立つ。キャップの焼却にはCO2の排出を伴うため、環境負荷軽減にも繋がる。この活動を続けていくことこそ、今求められることなのだと確信する。(杉山)

世界に広がる回収の輪！

ペットボトルのキャップ回収にご協力ください!

いつでもカンタンに手軽に

桜丘ボランティア委員会